

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：	3 2 2 0 6
研究種目：	基盤研究（A）
研究期間：	2009～2011
課題番号：	2 1 2 4 3 0 3 3
研究課題名（和文）	病・ストレスと生きる人々の支援科学としての健康社会学の実証及び理論研究と体系化
研究課題名（英文）	Development and Construction of the New Type of Health Sociology as a Science of Social Support for Healthy Work Organization Building and People Living with Chronic Illnesses
研究代表者	
	山崎 喜比古（YAMAZAKI YOSHIHIKO）
	国際医療福祉大学・保健医療学部・講師
研究者番号：	10174666

研究成果の概要（和文）：

健康生成論と人生究極の健康要因=Sense of Coherence（SOC、首尾一貫感覚）並びにエンパワメントアプローチを取り入れた、支援科学でもある新しい健康社会学の理論と方法を、「健康職場」づくりの研究、病と生きる人々の成長と人生再構築に関する研究、SOC の向上や高いことと密接な正の関連性を有する生活・人生経験の探索的研究、当事者参加型リサーチを用いた調査研究の展開・蓄積を通して、創出し描出した。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we have developed and shown the concepts and methods of the new type of health sociology, into which salutogenesis, sense of coherence (SOC), and empowerment approach were incorporated and which should be a science of social support. It has been developed through four fields of study: studies on healthy work organization, adversarial growth and life-reconstruction of people living with chronic illnesses, life experiences correlated with the enhancement of SOC or the maintenance of its high level.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	11,500,000	3,450,000	14,950,000
2010年度	10,500,000	3,150,000	13,650,000
2011年度	9,800,000	2,940,000	12,740,000
年度			
年度			
総計	31,800,000	9,540,000	41,340,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：健康社会学、健康生成モデル、Sense of Coherence（SOC）、ストレス対処、病と生きる、逆境下成長、健康職場、当事者参加型リサーチ

1. 研究開始当初の背景

1990年代に入った頃から、アントノフスキーが提唱した健康生成論と人生究極の健康要因

=Sense of Coherence(SOC,首尾一貫感覚)は、疾病生成論に基づいてきたこれまでの保健・医療・看護・心理・福祉といったヒューマンサービス

分野の世界にも大きなインパクトがもたらされ、パラダイムシフト的な変化も引き起こしつつあった。21世紀に入って以降、健康生成モデルとエンパワメントモデルの取り込まれた新しい健康社会学と健康社会学研究の創出がますます待たれるようになってきていたのである。本研究プロジェクトは、それまで通算6年間の科研費の助成を受けて病・ストレスを生きる人々を対象に行われてきた健康社会学的調査研究の継承と集大成が求められるようになってきた時期に開始されることになった。

2. 研究の目的

H21-23年度の3年間に亘る研究の目的は、健康・病気と保健・医療の世界に、世界の保健医療社会学が提起してきた社会モデル、健康生成モデル、当事者オリエンテッドという新しいパラダイムと理論に基づき、(1)健康的な「働き方」「働き方」の探求と「健康職場」づくり、(2)病と生きる人々の成長と人生再構築、(3)ストレス対処・健康保持力概念 SOC (Sense of Coherence、首尾一貫感覚)、(4)当事者とともに行う新しい調査研究方法論、の各テーマ領域において実証及び理論研究を進展させ、それらを統合し体系的に整理することによって、病・ストレスと生きる人々がますます増える時代に相応の健康社会学の基本的な描出と確立を目指すことにあった。

3. 研究の方法

研究対象は、さまざまな病気・障がいを抱えた人々から日々ストレスに曝されながらさまざまな産業で働く人たちとすることにより、病気・障がい・ストレスの違いを超えて、病・ストレスと生きる人々における対処・対応、成長と人生適応・再構築、社会環境のあり方に関する理論化、一般化、体系化に役立てることを重要視した。

調査の計画・準備から始めデータの収集・分

析を経て研究発表に至っている研究が多い。多くの調査研究において当事者参加型リサーチがとられ、或いは生かされ、研究成果も当事者の自助団体や実践・支援グループに直接に返されるものが少なくなかった。また、本研究プロジェクトでは、多くの調査研究において、質的調査研究と量的調査研究が併用された。

4. 研究成果

(1)健康的な「働き方」「働き方」と「健康職場」づくりの研究

①蓄積疲労または過労とディストレスや過ストレス状態、精神健康とワークモチベーションや職務満足度などをワークライフバランス/インバランスの評価基準として、あるいは、ワークファミリーコンフリクトを基準変数として、「働き方」とそれを規定する「働き方」における改善のポイントを示唆する調査研究を数本行ない発表してきた。健康の観点から「働き方」「働き方」を問う我々の研究は、世界的にも著名な米国医療社会学者 Perlin が1990年前後に推奨した「社会研究としてのストレス研究」「ストレスの社会学的研究」の継承発展として位置づけられるものとする。

②1990年代以降今日まで、Karasek や Cooper など世界的に著名な職業性ストレス研究者や米国立職業安全衛生研究所 NIOSH によって提唱され発展させられた「健康職場」概念をもとに、北欧の研究で明らかにされつつあった働く者の SOC の向上につながる労働職場環境条件に関する知見を取り込むなどして、我々は新たに職場風土・組織風土の多項目尺度/チェックリストを開発した。それをを用いて、数種類の産業労働者を対象とした労働職場環境と SOC と健康及びワークモチベーションに関する横断及び追跡調査研究を実施中である。ベースラインデータの横断分析の結果、職場風土は、過重労働と同程度あるいはそれ以上に精神健康とワークモチベーションに対し寄与が大きく、かつ、その影響の

半分以上は SOC を介して及んでいる可能性が示唆された。健康職場づくりにとって、職場風土改善と SOC 向上がカギになってくることを示唆する結果であった。追跡調査による取り組みや介入の効果及び因果関係の検証は現在進行中であり、今後待たれるところである。

(2)病と生きる人々の成長と人生再構築に関する研究

①我々は、この3年間にも、病ある人生等、逆境下を生きることを余儀なくされた人々、具体的には、薬害 HIV 感染生存患者・家族と被害者遺族、HIV 感染患者、神経難病や消化器系難病をはじめとする難病患者、精神疾患と身体疾患ないし障害を抱えたホームレスの人たちを対象に、調査・分析を進めてきた。その調査・分析を通して、我々は、逆境が彼らにもたらしている苦痛や困難が疾患や障害の次元を超えて、アイデンティティや生活・人生の奥深くにまで及んでいること、しかし、同時に、彼ら/彼女らは、そうした苦痛と困難に対して、日々さまざまに対処し適応に努力し或いは苦勞していること、この過程において逆境下成長や人生再構築の進んでいるケースも決して少なくないことを明らかにしてきた。我々は、こうした人々の苦痛と困難に光を当て、その軽減と除去を図る従来からのとりくみとともに、対処・適応のための努力や苦勞に目を向け、努力を支援し苦勞の軽減に役立つ支援的環境整備を図るとりくみがますます重要になってきていることを示唆してきた。

(3)健康生成論と SOC に関する研究

①我々は、心理学的満足度よりも力概念に近い心理学的ウェルビーイングやストレス対処力概念 SOC の向上を目的とした Web によるストレスマネジメントプログラムを、プロセス評価研究とアウトカム評価研究を介入研究デザインでホワイトカラーを対象に行うことにより検証し開発した。その効果は、自分に悩みや不安をもたらしている元を自覚したり把握したり、或いは客観視した

り意味付けし直したりする作業を通して得られている可能性を示唆する結果であった。

②我々は、SOCを組み込んだ横断調査データや縦断調査データを用いて、SOC の向上や高いことと正の関連性を有する「逆境下成長」と「知覚されたところの肯定的変化」といった生活・人生経験をここ3年間に次々に明らかにしてきた。それは、SOC とそうした生活・人生経験とが正のスパイラル(生の相互作用或いは相乗効果)の関係にあるか、或いは表裏一体またはそうした生活・人生経験はSOCの構成要素という関係にあることを示唆する結果であり、SOC の具象化(「見える化」)に役立ち、さらに、SOC の形成促進・向上策の開発・検討に極めて示唆的であることを国内外で論文発表、学会発表として明らかにされ大きな反響を呼んだ。

(4)当事者参加型リサーチ等の調査研究方法論の研究

①当事者と研究者の終始一貫協働で進める新しいスタイルの調査研究=当事者参加型リサーチには、当事者の視点を見落とさない、間違いなく組み込めるという点、また、当事者はもとより研究者のエンパワメントにもつながるという点、そのため調査研究の社会的実践的意義さらには理論的にも高からしめる点、つまり、調査研究の質と水準を画期的に高からしめる利点を有することを、前述・上述の調査研究に用い、或いは生かしてきた経験をもとに、論文発表と学会発表を行い、自分たちの講義や教科書でも取り上げてきた。

②その他、我々には、方法論的トライアングレーション(方法論的複眼)についても、質的調査研究と量的調査研究の結合を中心に、当事者参加型リサーチと同様の実績と成果がある。いずれも単行書、ハンドブックとしての取り纏めと出版が期待されており、今後の課題である。

(5)研究成果の国内外への発信と健康社会学関連のテキスト・副読本の出版

①研究実績は、H21-23 年度の 3 年間で、雑誌論文・書籍中分担執筆論文 34 件(うち英文論文 24 件)、学会発表・招待講演 96 件(うち国際学会 38 件)、図書すべて和文図書 6 件であった。研究成果の国内外への発信は至って旺盛と判断されよう。図書には、健康社会学関連のテキスト・副読本として位置付けられたものが多く、そのような形での出版を通して、個々のテーマでの実証及び理論研究の健康社会学への体系化が試みられた。

②本研究プロジェクトでは、こうした学会や学会誌への研究発表以外に、健康生成モデルの中核概念である SOC をテーマにした講演依頼が多いのが特徴である。最終年度の平成 23 年度だけでも、地域医療人育成協議会、自死遺族支援グループ、ライフリンクがそれぞれ主催した参加規模にして数十人から百二十人の研修会・学習会での講演が行われた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 34 件中 22 件掲載)

- 1) Togari T, Yamazaki Y, A causal relationship between sense of coherence and psycho-social work environment: from 1-year follow-up data among Japanese young adult workers, *Global Health Promotion*, 査読有、19、2012、32-42
DOI:10.1177/1757975911429870
- 2) 山崎喜比古、健康生成モデルの中核概念 Sense of Coherence (SOC) とその向上策を探る、産業精神保健、査読無、19 巻 4 号、2011、270-275
- 3) 朴峠周子、武田文、戸ヶ里泰典、山崎喜比古、木田春代、小学校高学年における首尾一貫感覚 (Sense of Coherence, SOC) の変化およびソーシャルサポートとの因果関係、1 年間の縦断調査から、日本公衆衛生雑誌、査読有、58 巻 11 号、2011、967-977
- 4) Togari T, Sato M, Yamazaki Y, et al., The development of Japanese 13-item version of Psychological Sense of School Membership Scale for Japanese urban high school students. *School Health*, 査読有、7、2011、62-72

- 5) 戸ヶ里泰典、山崎喜比古、SOC 概念とその形成・発達・強化、思春期学、査読無、23、2011、331-339
- 6) 坂野純子、二宮一枝、高玉琴、難波峰子、子どもの Sense of Coherence と心身の自覚症状、口腔保健行動および生活習慣との関連、*International Nursing Care Research*, 査読有、10 (3)、2011、27-34
- 7) 坂野純子・菊澤佐江子・的場智子・山崎喜比古・杉山克己・八巻知香子・望月美栄子・笠原麻美、精神障害者に対する大学生のステイグマ的反応尺度の因子構造と関連要因、岡山県立大学保健福祉学部紀要、査読無、17 (1)、2011、19-25
- 8) 石川ひろの、ヘルスコミュニケーションとヘルスリテラシー、保健医療社会学論集、査読無、22 (2)、2011、16-21
- 9) MJ Park, Yoshihiko Yamazaki, Hirono Ishikawa, 他 4 名、2 番目、5 番目、Predicting complete loss to follow-up after a health-education program: number of absences and face-to-face contact with a researcher. *BMC Medical Research Methodology* 査読有、2011、11:145. <http://www.biomedcentral.com/1471-2288/11/145>
- 10) Yamazaki, Y., Togari, T., Sakano, J., Toward Development of Intervention Methods for Strengthening the Sense of Coherence (SOC), *Suggestions from Japan.*, Muto, T. et al. eds. *Asian Perspectives and Evidence on Health Promotion and Education*, Published by Springer, 2011、118-132
- 11) Togari T, Sato M, Otemori R, Yonekura Y, Yokoyama Y, Kimura M, Tanaka W, Yamazaki Y, Sense of coherence in mothers and children, family relationships, and participation in decision-making at home: an analysis based on Japanese parent-child pair data. *Health Promot. Int.*, 査読有、27 (2)、2011、148-156
DOI: 10.1093/heapro/daq081, January 3, 2011
- 12) Kimura M, Yamazaki Y, et al., Can I have a Second Child? Dilemmas of Mothers of Children with Pervasive Developmental Disorder-a Qualitative Study, *BMC Pregnancy and Childbirth* 査読有、2011、103-119
- 13) Setoyama Y, Yamazaki Y, Nakayama K, Comparing support to breast cancer patients from online communities and face-to-face support groups, *Patient Education and Counseling*, 査読有、2011、226-236
- 14) Yukawa K, Yamazaki Y, Togari T, et al.,

Effectiveness of a Chronic Disease Self-Management Program in Japan: Preliminary Report of a Longitudinal Study, Nursing and Health Sciences, 査読有、12, 2011、456-463

15) Kawai K, Yamazaki Y, Nakayama K, Process Evaluation of a Web-based Stress Management Program to Promote Psychological Well-being in a Sample of White-collar Workers in Japan, Industrial Health, 査読有、48、2010、265-284

16) Tomoko TAKEUCHI, Yoshihiko YAMAZAKI. Relationship between work-family conflict and sense of coherence among Japanese registered nurses. Japan Journal of Nursing Science. 査読有、7(2), 158-168, 2010.

17) 木村美也子、山崎喜比古、戸ヶ里泰典 他5名3番目、8番目、高校生の子をもつ中高年期女性のメンタルヘルスと地域との関わり及び地域のソーシャル・キャピタルとの関連性の検討、社会医学研究、査読有、27(1)、2009、35-44

18) 山崎喜比古、ストレス対処力 SOC(Sense of coherence)の概念と定義、看護研究、査読無、42(7)、2009、479-490

19) Michiko Kato, Yoshihiko Yamazaki, An examination of factors related to work-to-family conflict among employed men and women in Japan, Journal of Occupational Health, 査読有、51(4)、2009、303-313

20) 戸ヶ里泰典、山崎喜比古、ストレス対処能力 SOC の社会階層格差の検討—20歳~40歳の若年者を対象とした全国サンプルから、社会医学研究、査読有、26(2)、2009、45-52

21) 戸ヶ里泰典、小手森麗華、山崎喜比古、他3名1番目、3番目、高校生における Sense of Coherence(SOC)の関連要因検討—小・中・高の学校生活各側面の回顧的評価とSOCの10ヶ月間の変化パターンとの関連性—、日本健康教育学会誌、査読有、17(2)、2009、71-86

22) Yuko Hirano, Yoshihiko Yamazaki, Illness experiences of invasive mechanical ventilator-dependent amyotrophic lateral sclerosis patients in Japan: A study of trajectories and correlates of psychological well-being, Jpn J Human Ecology, 査読有、75(3)、2009、79-89

[学会発表] (計96件中16件掲載)

1) 山崎喜比古、戸ヶ里泰典、大宮朋子、横山由香里、益子友恵、木村美也子、朴敏廷、本間三恵子、榊原圭子、人生経験との関連性

分析による一連のストレス対処力概念 Sense of Coherence (SOC) 具象化研究の結果と意義ならびに方法論的省察、第76回日本民族衛生学会総会、2011年11月24日、福岡大学

2) 戸ヶ里泰典、山崎喜比古、中山和弘、清水準一、東大健康社会学版SOC3スケールの信頼性と妥当性の検討—4年間の全国追跡調査結果より—、第76回日本民族衛生学会、2011年11月22日、福岡大学メディカルホール、

3) 大宮朋子 山崎喜比古、SOCの高いHIV感染者に特徴的な経験とは何か—SOC低群との比較から、就労と社会生活を中心に—、第76回日本民族衛生学会、2011年11月22日、福岡大学メディカルホール

4) 津野陽子、榊原圭子、河合薫、益子友恵、山崎喜比古、医療IT従事者の労働職場ストレスサーの研究(2):頻度とストレス強度の検討、第70回日本公衆衛生学会総会、2011年10月20日、秋田アトリオン(秋田市)

5) 山崎喜比古、益子友恵、戸ヶ里泰典、坂野純子、米倉佑貴、横山由香里、大宮朋子、Sense of Coherence(SOC)とその向上策は見えてきたか?—職場、学校、病と生きる人たちに於いて—、第52回日本社会医学学会総会、2011年7月23日、富山大学五福キャンパス

6) 戸ヶ里泰典、山崎喜比古、佐藤みほ、小手森麗華、米倉佑貴、横山由香里、木村美也子、高校生の sense of coherence を左右する小・中学生時の経験とは、第20回日本健康教育学会学術大会、2011年6月26日、福岡県歯科医師会館

7) Tomoe Mashiko, Yoshihiko Yamazaki, Workplace Social Climate associated with Sense of Coherence, and their effects on workers' Health, "Work, Stress, and Health 2011: Work and Well-Being in an Economic Context." American Psychological Association, 2011. 5.21, Orland, Florida, USA.

8) Keiko Sakakibara Seki, Yoshihiko Yamazaki, Participative climate as a key for creating healthy workplaces, "Work, Stress, and Health 2011: Work and Well-Being in an Economic Context." American Psychological Association, 2011. 5.21, Orland, Florida, USA.

9) 笠原麻美、山崎喜比古、Autoethnographyの文献的検討—当事者参加を重視した新しいタイプの調査研究方法論(その1)—、第83回日本社会学会大会、2010年11月6日、名古屋大学

10) Hoshino S, Yamazaki Y: Perception Dementia Prevention among Elderly Persons at adult Day Care Centers—A Qualitative Interview Study, 17th World Congress of Sociology, International Sociological Association, 2010. 7. 14.、The Swedish

Exhibition & Congress Centre in Gothenburg Sweden

11) Yamazaki Y, Inoue Y, Ito M, Omura K, Twenty Years of Survival with Iatrogenic Infection in Japan, 17th World Congress of Sociology, International Sociological Association, 2010.7. 12.、The Swedish Exhibition & Congress Centre in Gothenburg Sweden

12) Y. Yamazaki, Key Note Speech: Salutogenesis, Sense of Coherence (SOC), and their Application in Health Promotion.、2010 Annual Meeting on University Health Promotion and Education. 2010.6.1.

National Taipei Univ. of Education, Taipei

13) 横山由香里, 山崎喜比古, 井上洋士, 伊藤美樹子, 溝田友里他, 葉害 HIV 感染患者・家族の逆境下成長と促進要因に関する研究, 第 23 回日本エイズ学会学術集会, 2009 年 11 月 27 日, 愛知, 名古屋国際会議場

14) 山崎喜比古, 坂野純子, 清水由香, 望月美栄子, 当事者主導の慢性疾患セルフマネジメントプログラムの「病と生きる力」形成への新しい可能性発見, 日本福祉学会第 57 回全国大会, 2009 年 10 月 11 日, 町田, 法政大学多摩キャンパス

15) Ide A, Yamazaki Y, Life Situation of Persons with Disability in the Skid Row District of Yokohama, Japan: Relations between Social Support Networks and Health Behaviors, The 1st Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education, 2009.7.20, Chiba, Japan.

16) Sakano J, Yamazaki Y, Togari T, Kobayashi M, Ishibashi A, et. Al, The child sense of coherence (CSOC) and social capital, The 1st Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education, 2009.7.20, Chiba, Japan.

〔図書〕(計 6 件中 6 件掲載)

1) 井上洋士編, 放送大学振興会、ヘルスリサーチの方法論. 井上洋士 第 13 章 当事者参加型リサーチ, 2012、印刷中

2) 石川ひろの, 進藤雄三, 山崎喜比古, 医学書院、系統看護学講座 社会学, 2012、260

3) 山崎喜比古, 戸ヶ里泰典編著, 有信堂高文社、思春期のストレス対処力 SOC, 2011、210

4) 山崎喜比古, 朝倉隆司編著, 有信堂高文社、生き方としての健康科学, 第五版, 2011、186

5) 井上洋士, 山崎喜比古編著, 財放送大学教育振興会、健康と社会, 2011、278

6) 井上洋士, 伊藤美樹子, 山崎喜比古編著, 勁草書房、健康被害を生きる～葉害 HIV サバ

イバーとその家族の 20 年～、2010、341

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山崎 喜比古 (YAMAZAKI YOSHIHIKO)

国際医療福祉大学・保健医療学部・講師

研究者番号: 10174666

(2) 研究分担者

井上 洋士 (INOUE YOUJI)

放送大学・教養学部・教授

研究者番号: 60375623

伊藤 美樹子 (ITO MIKIKO)

大阪大学・大学院医学系研究科・准教授

研究者番号: 80294099

石川 ひろの (ISHIKAWA HIRONO)

東京大学・医学部附属病院・准教授

研究者番号: 40384846

戸ヶ里 泰典 (TOGARI TAISUKE)

研究者番号: 20509525

坂野 純子 (SAKANO JYUNKO)

岡山県立大学・保健福祉学部・准教授

研究者番号: 70321677

(H22: 連携研究者)

津野 陽子 (TSUNO YOKO)

東邦大学・看護学部・助教

研究者番号: 50584009

(H21→H22: 研究協力者)

(3) 連携研究者

中山 和弘 (NAKAYAMA KAZUHIRO)

聖路加看護大学・看護学部・教授

研究者番号: 50222170

若林 チヒロ (WAKABAYASHI CHIHIRO)

研究者番号: 40315718

清水 由香 (SHIMIZU YUKA)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・

助教

研究者番号: 90336793

渡辺 敏恵 (WATANABE TOSHIE)

聖徳大学短期大学部・介護福祉学科・講師

研究者番号: 90363788

清水 準一 (SHIMIZU JYUNICHI)

首都大学東京・健康福祉学部・准教授

研究者番号: 40381462

的場 智子 (MATOBA TOMOKO)

東洋大学・ライフデザイン学部・准教授

研究者番号: 40408969